

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和3年度 富山高等学校アクションプラン -1-

重点項目	学習活動	
重点課題	家庭学習の充実(生徒)と教師の授業力向上	
現 状	<p>(1)本校では家庭学習時間を1日平均4時間以上(1週間で28時間以上)確保するよう指導しているが、目標を達成している生徒がいる一方、うまく学習時間が確保できない生徒も見受けられる。また、目標時間を確保しながらもなかなか学習効率が上がらず成績の向上に結びつかない生徒も見受けられる。</p> <p>(2)生徒の実態は年々変化しており、それと共にこれまでの講義形式の授業だけでは、生徒の主体性を十分に引き出すのが難しくなっている。教師は「学び合い」「ICTの活用」など、授業形態に工夫を凝らした、魅力ある授業を展開し、生徒の主体性の引き出しや学力のより一層の伸長を模索する必要がある。</p>	
達成目標	<p>[家庭学習の充実]</p> <p>①1・2年生の学習時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら計画した家庭学習時間を達成した生徒の割合70%以上 <p>②効率的な学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的で効率的な学習ができるようになり、学習の総量が増える生徒の割合80%以上。 	<p>[授業力向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学び合い」を行った授業の割合80%以上。 ・主体的に授業に参加した生徒の割合80%以上。
方 策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体指導の強化に加え、担任および教科担当者による面接等を通し学習時間の確保に問題をかかえる生徒を重点的に指導する。 2. 時間の使い方について日頃から指導し、学習効率の向上に取り組ませるなど、学習の質を上げようとする意識を持たせる。 3. ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、さらに効果的な利用法について研究を進める。 4. 各教科・科目において「学び合い」・「ICTを活用した授業」等を計画的に設定し、生徒の主体性を引き出す。 5. 進路指導部と連携し、課題の質および量の適正化をはかる。また、学習計画が適切であるかや、学習方法が効率的で効果的なものであるかを担任および教科面接を通じて指導する。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和3年度 富山高等学校アクションプラン-2-

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の改善	健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上
現 状	<p>本校では『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。しかし、スマートフォン等を長時間使用し、学習に支障をきたす生徒も見受けられる。また、スマートフォンの利用時間は、最近数年は増加の傾向にある。</p> <p>また、スマートフォンの使用マナーが守れず、「ながらスマホ」で他人に迷惑を掛けたり、自転車に乗りながらスマホを操作し、事故に遭う(起こす)ケースも世間で報じられている。</p> <p>素直で真面目であるが、現実柔軟に対応できず悩みを抱え、高校生活に適応しづらくなっている生徒がいる。学習への精神的圧迫からか1年2学期から2年1学期にかけて不登校気味になる生徒も見受けられる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止は、喫緊の課題である。感染拡大防止対策の一環として換気が推奨されており、日々実践しているところではあるが、換気の状態を正確にとらえることは難しく、換気がおろそかになってしまうことも見受けられる。室内の二酸化炭素濃度を測定し換気の状態を認識し、十分に換気を行うことができるようになることが必要である。</p>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> ①スマートフォンの、学習活動・生徒間連絡利用以外の使用時間短縮 ②個人情報のSNSへの安易な書き込みの防止。 ③「ながらスマホ」の危険性を認識し、自己の行動抑制に努める。 <p>①午後11時から翌朝7時までスマートフォン使用しない(イレブン・セブン運動を守っている)生徒割合が70%以上。</p> <p>②ネットパトロール等外部から指摘を受けるような他人の個人情報掲載、著作権違反、他への中傷記載などをなくす。</p> <p>③自転車運転中のスマホ使用をなくす。</p>	<p>環境整備委員、保健委員が中心となり、室内の二酸化炭素濃度を測定し、出来れば1000ppm、多くても1500ppmの濃度を下回るように、換気を徹底させる。</p>
方 策	<ol style="list-style-type: none"> 1. スマートフォンは学習活動・生徒間連絡に不可欠なものとなりつつあるが、生徒に対して講演会を実施するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、使用時間を控えさせる。 2. 個人情報の安易な開示・書き込みなどについての危険性について生徒の意識向上を図る。 3. 「ながらスマホ」の事故例などを知らせ、その危険性を認識させ、自分の行動を見直すように呼びかける。 	<p>二酸化炭素濃度測定器を教室に配置し、環境整備委員、保健委員を中心に教室内の二酸化炭素濃度を記録する。換気することで教室内の二酸化炭素濃度が低下することを実感し、換気の習慣を確立する。二酸化炭素濃度と眠気の関係や作業効率への影響を知り、感染拡大防止とともに、より良い学習環境について学ぶ。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)